

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立 76 年の歴史と伝統のもと、落ち着いた学習環境の中で生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、進路希望を実現できる学校をめざす

『夢・その扉を開くのは君だ!』をキャッチフレーズとし、将来の夢の実現に向けて取り組む生徒を育成します

- (1) 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向けて、積極的に学力向上をめざす生徒
- (2) 高校生活の充実に向け、他の生徒と協調・協力しつつ、学校活動（学級活動・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等）に積極的に取り組む生徒
- (3) 社会の一員として規範意識を持ち、積極的に社会と係わる生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成を進め、希望する進路の実現につなげる取組みを推進

- (1) 生徒の学力を最大限に高める
 - ア わかりやすく、意欲・関心を高め、主体的に取り組める授業の実施
 - ① 教員の授業力の一層の向上を進め、主体的な学びを育む指導方法の改善と指導内容の精選を図り、効果的な教材作成の工夫を進める。
 - ② 教員相互の授業交流や生徒の授業アンケートの活用等により、全校的に授業力向上に取り組む。また、習熟度別授業、少人数授業のあり方についても継続的に改善を進める。
 - イ 講習・補習の充実

進路指導部と教務部が連携を密にして放課後や長期休業中の講習・補習を実施し、進路実現に向けた取組みを充実させる。

*授業アンケートの平均点 (H28=3.04/4 点) を H29 年度以降も 3.0 以上とする。

*学校教育自己診断（以下自己診断）（生徒）「生徒の講習満足度」(H28=64%) を H31 年度までに 70%へ引き上げる
- (2) ビジネス情報コースの充実・発展

授業内容と資格取得に向けた取組みを充実させ、生徒の進路実現に活かせるコースとして発展させる。

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現する指導体制の再構築

- (1) 進路指導室の活用方法の工夫やアクティブラーニンググループの活用等により、進学・就職の意識を高め、進路実現のサポート体制を充実させる。
- (2) 3 年間を見通した志学、キャリア教育と人権教育を連動させた生徒育成プログラムを構築する。
 - ア 「総合的な学習の時間」と LHR を活用する。
- (3) 個別の進路希望に応じた取組みの充実
 - ア 生徒一人ひとりの進路カードの作成・活用により、計画的な進路指導を行い、一人ひとりの進路希望に応じた適切で迅速な情報提供を行う。

*自己診断の進路指導への満足度 (H28 生徒・保護者=76%・85%) を H31 年度までに生徒・保護者=80%・85%以上とする。

3 豊かな心の育みと自主性および規範意識の育成

- (1) 人権教育の推進
 - ア いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める。

*自己診断（生徒）「人権に関する指導」(H28 肯定率=48%) を H31 年度までに 60%以上とする。
- (2) 読書活動の推進【新設】
 - ア 生徒の読書活動を推進するために、多彩な広報活動と学校図書館等の整備・充実を進める。
- (3) 生徒会活動や部活動の活性化を通じた自主性の育成・向上
 - ア 学校行事の活性化に向け生徒の自主的な取組を進める。

*自己診断（生徒）「学校行事への満足度」(H28 体育祭=75%・文化祭=71%) を H31 年度までに 80%以上とする。
 - イ 体験入部期間を設けるなど部活動を身近なものとする工夫をする。また、地元中学校との交流を進める。

*部活動加入率 (H28=46.6%) を H31 年度までに 50%以上とする。
- (4) 規範意識を醸成し、自主的に規律を守る生徒の育成をめざした生徒指導体制の確立
 - ア 全教職員の共通理解のもと、遅刻撲滅に向けた指導体制を再構築するとともに、家庭との連携協力を図る。
 - イ 頭髪・制服指導など、日々、生徒と向き合う指導を粘り強く継続する。
 - ウ 交通マナーの向上を図るための講習会を実施する。

*自己診断（生徒・保護者）「生徒指導への満足度」(H28 生徒・保護者=43%・74%) を H31 年度までに生徒・保護者 50%・80%以上とする。
- (5) きめ細やかな保健・安全指導と教育相談体制の充実
 - ア 生徒情報の共有化を進め、全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導に当たる。
 - イ 支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実する。

*自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」(H28 生徒・保護者=56%・86%) を H31 年度までに生徒・保護者=60%・86%以上とする。

4 総合的な学校力の向上

- (1) 初任者等、経験の少ない教職員とミドルリーダーの育成
- (2) 校内研修の充実と教職員の人権意識の向上

*自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」(H28 肯定率= 68%) と「校内研修（新設）」の肯定率を H31 年度までに 80%以上とする。
- (3) ICT 活用と実験・実習、体験的な教科指導の充実

*自己診断（生徒）「情報機器の利用や活用・・・体験的な授業が充実している」(H28 肯定率= 52%) を H31 年度までに 60%以上とする。
- (4) 学校の組織的運営と校務の効率化

*自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」(H28 肯定率= 71%) を H31 年度までに 80%以上とする。
- (5) 地域への発信および広報活動の充実
 - ア 中学校、保護者、教育関係者に向けた積極的な情報発信を行い、本校の魅力を伝え、地域に根ざした学校づくりを行う
 - イ 生徒参加による学校説明会や中学校訪問を実施して、本校の教育活動の理解を拡げる

*学校説明会参加者アンケートの肯定的評価 (H28 中学生・保護者=89%・85%) を H31 年度までに 90%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施]	学校協議会からの意見
(1年) 行事の参加意識は高い。授業態度悪いの指摘 (2年) 科目選択不満20%を意識。情報機器活用や体験的学びの評価低い (3年) 進路情報提供や総合的学習の評価高い。人権・社会規範意識は高い (教務) 主体的・対話的な学びの対応が必要 (生徒指導) 生活指導の評価がまだ低く、意義説明が必要 (生徒会) 行事評価高い。部活加入増は課題 (進路) 保護者への情報提供に工夫必要 (総務) 保護者が	第1回 7/11・確かな学力の育成を測る具体的な方策は ・中学生から選ばれるためには、本校の特色を前面に出すことが必要 ・新学習指導要領を見通した取組み (大学入試新テスト、英語 4 技能等) の基本方針を示す ・本校はこの数年、随分良くなってきたが、次のステップに向けた攻めの姿勢を出していく ・学校が安全安心の場である為、しんどい時の居場所が必要 (他校の居場所カフェづくりの試み) 第2回 11/20・アルバイトをしても部活動ができるというあり方も考えてはどうか ・社会や大学進学時には、部活動でしか得られない点をアピール ・外で活動する生徒の評価や生徒のタレント性の発掘・評価も大切 ・ビジネス情報コースはプログラミング・ゲーム制作等の中学生に関心ある内容や実社会で有効な資格取得必 ・学校説明会に人を集める工夫 ・学校の古さをうまくアピール ・HP やブログの更新は有効な手段である

府立泉大津高等学校

多忙で活動に工夫必要（保健）緊急対応の実践訓練の工夫必要（人権）講演・研修に高い評価（教育相談等）相談件数が少ない（広報）HPでの発信の努力必要	第3回2/23・自転車マナーは地域の信頼に繋がる・他校種でも教職員の事務処理業務が多忙化の原因で子供と係わる時間に影響・読書活動は学校全体の取組みや中学校との連携必要・部活動を生徒のニーズに合うものや、働き方改革の観点で部活動指導の改善は必要・経験少ない教員の育成はどの校種でも重要。意欲を引き出す環境づくりも課題
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成を図りながら、進路実現をめざす取組みの推進	<p>(1) 生徒の学力を最大限に高める ア わかりやすく、意欲・関心を高め、主体的に取り組む授業の実施</p> <p>イ 講習・補習の充実</p> <p>(2) ビジネス情報コースの充実</p>	<p>(1) ア・教員間の授業交流の促進。研究授業・協議を一層活性化させ、更なる授業力向上につなげる ・生徒による授業評価と授業公開等（年2回）を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善につなげる ・授業力向上に向けた教員相互の授業見学の実施 ・数学・英語の習熟度別少人数展開授業について学力向上の観点から総括し、より効果的な授業を行う</p> <p>イ・進路指導部と教務部が密に連携して放課後や長期休業中等に講習・補習を実施する</p> <p>(2) ・ビジネス情報コースの授業において資格取得に向けた取組みをさらに充実させ、H28 資格取得成果を効果的に発信してコース希望者の拡大を図る。 ・地域と連携した実践的な授業内容を創造する</p>	<p>(1) ア・授業アンケート学校平均を3.0以上を維持（H28=3.04） ・生徒の授業満足度75%以上（H28=75%） ・相互の授業見学3回以上 ・少人数授業の生徒アンケート満足度の上昇（特に、数ⅠⅡ）（H28 数Ⅱ=45%, 59%, 英表現=88%）</p> <p>イ・H28 夏期講習参加率（のべ）1年・2年・3年=11・47・49%を全学年で5%上昇 ・「講習満足度」H28=68%を70%以上</p> <p>(2) ・ビジネス情報コース選択者30名をめざす（71期11名） ・地域と連携した実践的な授業内容を1件以上</p>	<p>(1) ア・3.03→（○） ・授業満足度75%（○） ※生徒は主体的に係わる取組みの授業への評価高い。今後「主体的・対話的で深い学び」の授業改善は必須である。 ・授業見学3回（○） ・数ⅠⅡ=59, 59%, 英=86%（88）（○） ※昨年並み評価。</p> <p>イ・1年2年3年=40・30・68% ・全体参加46%↑（453名）（◎） ※+12%の大幅増（対象者が拡大） ・満足度63%↓（△）※参加者増による細やかな指導が必要</p> <p>(2) ・H30年度選択者8名↓（△） ・泉大津市との連携事業（◎） ※市と連携した取組みは生徒の達成感が高く、この試みを十分に1年生に広報できず、選択者増に繋がらず。今後、より実践的な学習内容や進路ニーズに合う資格取得などの改善が必要。</p>
2 「高い志」や「将来の夢」を実現する指導体制の再構築	<p>(1) 進路実現に向けたサポート体制の充実</p> <p>(2) 3年間の生徒育成プログラムの構築</p> <p>(3) 進路希望に応じた取組みの充実 ア 一人ひとりの進路希望に応じた適切で迅速な情報提供 イ 就職に関する指導 ウ 進学に関する指導</p>	<p>(1) ・進路指導室および資料室の整備と活用 ・アクティブラーニングルーム（ALR）を進路実現に向けた主体的な学びの場として、生徒の一層の活用を促す</p> <p>(2) ・「総合的な学習の時間」は、学校目標達成に向け、これまでの実践を踏まえて、総合学習検討委員会が中心となって計画の検討・改善を進める ・「3年間の系統的なキャリアプラン」をブラッシュアップし、よりよい進路実現に向け、全教員が目標を共有し、一人ひとりがキャリア教育の視点を持って、より質の高い実践へと進化させる ・教育産業学力診断を年2回実施し、データ分析を行い、生徒への効果的な活用を進める</p> <p>(3) ア・進路個人カードを活用し、きめ細やかな進路指導を実施することで、モチベーションを高め、できるだけ早期の進路目標の獲得につなげる ・進路個人カードのより活用しやすい様式と活用法を検討</p> <p>イ・就職主担と独自配置の職業支援Coを中心に就職希望者にきめ細かい指導・支援を行い、就職内定率100%の達成</p> <p>ウ・進路指導部主導で進学実現に向けた取組みを充実し、夢の実現の具体例を示すことで、挑戦する姿勢を育て、合格実現につなげる</p> <p>・進路指導部と学年が連携し、1年次より進路実現に向けた講習等、継続的な取組みを実施することで生徒一人ひとりの可能性を高める</p>	<p>(1) ・資料室の活用状況を把握し、有効な活用の方策を打ち出す ・自己診断「進路指導室の活用」（H28 生徒・教員=51%・81%）の上昇 ・ALR使用の生徒肯定意見「今後も使用したい」（H28=90%）の上昇</p> <p>(2) ・自己診断「総合時間の活用」肯定意見（H28 生徒・教員=63%・82%）の上昇 ・自己診断「キャリアプラン肯定意見」の上昇（教員 H28=78%） ・「進路実現に向けたきめ細かい指導を行っている」の上昇（教員 H28=87%） ・データ分析会の実施と担任への有効な情報提供</p> <p>(3) ア・「1, 2年次での質の高い進路目標の保有を図る」の90%以上（H28 1年・2年=97%・86%） ・進路個人カードの様式等の改訂</p> <p>イ・職業支援Co 独自活用と内定率100%達成</p> <p>ウ・1, 2年次での体験的取組を3回以上実施 ・3年次、希望進路の100%実現</p> <p>・講習の継続実施</p>	<p>(1) ・外部者の講演会・見学会を開催（80名参加）（○） ・生徒・教員=61%・75%（○） ・91%↑（○）※85名より集約</p> <p>(2) ・生徒・教員=68%・91%↑（○） ※体験型のキャリア学習は生徒の評価高く、効果に期待できる。 ・キャリアプラン86%↑（○） ・きめ細かい指導82%↓（△） ※進路変更増との関連で減 ・分析会役立つ51%↓（△） ※担任経験少ない者に高評価で開催意義はあるが、ベテラン層にはマンネリ化で再考が必要</p> <p>(3) ア H29 1年・2年=64%・99%・（△） ※1年生が低い。今後の進路指導が重要となる ・改訂済み（○）</p> <p>イ・活用は有効・100%達成（○） ※Coは大きな力となった。今後、学校雇用負担が課題。</p> <p>ウ・実施・各体験で生徒の進路意欲上昇（○） ・100%達成（○）※3年初めの進路変更が多く、苦労はあった。今後、家庭や社会状況を注視が要 ・講習回数・講習満足度も昨年並み（○）</p>

府立泉大津高等学校

<p>3 豊かな心の育みと自主性および規範意識の育成</p>	<p>(1)人権教育の推進 (2)読書活動の推進 (3)自主性の育成・向上 ア 生徒会活動の活性化 イ・部活動の活性化 ・部活動による中高連携の充実 (4)規範意識醸成 ア 遅刻撲滅に向けた取り組み イ 生徒と向き合う指導の徹底 ウ 交通マナーの向上 エ 集団行動の徹底 オ 薬物乱用防止教育の推進 カ 美化意識のさらなる醸成 キ ボランティア活動の推進 (5)保健指導と教育相談体制充実 ア 生徒情報の共有化とカウンセリングマインドでの指導継続 イ 「高校生活支援カード」の活用</p>	<p>(1)ア・いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める ・人権教育推進委員会で人権教育に関わる各学年の取り組みを総括し、学校行事やHR等における3年間の体系的な人権教育プランを作成し、充実を図る (2)生徒の読書活動を促すため、図書委員や図書部と連携した取り組みを推進する (3)ア・体育祭、文化祭の運営を生徒会生徒が主体的にできるよう教員がサポートし、自主性を育む ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を継続展開し、あいさつのできる学校をめざす イ・生徒会が中心となり入学時からの取り組みの充実を行い、部活動加入生徒の増を図る ・部活動における中学校との合同練習や試合を実施し、中学校との交流を活発化する ・夏季休業中における部活動生徒による中学校訪問の実施 (4)ア 遅刻指導システムを定着させ、さらなる遅刻者数の減少を図る イ・頭髪・制服指導等の全校統一した指導基準で生徒と向き合う指導を通して、規範意識の醸成や問題行動防止等について生徒の学校生活を支援する ・昼休み巡回指導の必要性とその効果についての共通理解を図り、指導体制の充実を図る ウ・自転車通学者のマナー指導を警察と連携して行う ・交通安全講習会の実施 エ・始・終業式、学年集会等での迅速な集合と聴く態度の徹底を促し、避難訓練時の主体的な避難行動と迅速な集合をめざす オ・これまで実施してきた薬物乱用防止の取り組みをさらに充実させる ・薬物ブロッカーズの取り組みを校外に発信し、薬物乱用防止の啓発につなげる カ 生徒が自主的に清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う キ さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る (5)ア・教育相談研修やケース会議を実施し、担任だけでなく教員全体の知識・理解を向上させ、生徒支援体制を充実させる イ 「高校生活支援カード」について教育相談・支援委員会が連携し、適切な対応を行う</p>	<p>(1)ア自己診断(生徒)「人権に関する指導」の肯定率(H281年・2年・3年=64%・67%・86%の上昇 (2)貸出図書増加(H28=3377冊)、地域図書館との連携実施 (3)ア・自己診断「生徒会活動」肯定率50%以上(H28=41%) ・自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」(H28=62%)の上昇 自己診断(教員)「あいさつが増えた」 (H28=69%)の上昇 イ・1年生の部活動加入率を50%に上げる(H28=45%) ・地元中学校との連携について、種目、回数を増やす(H28=8クラブ28回) ・訪問生徒数の把握を行い、次年度の活動に活かす。 (4)ア年間遅刻総数の減少(H28=2687件) イ 昼休み巡回指導教員増と年間の継続 ウ・警察と連携し、学期1回の通学路指導週間の実施 ・講習会の年1回実施 エ・体育館集合の6分以内 ・集会時、全校生徒が私語なく、話し手に集中する ・避難訓練の集合6分以内 オ・薬物乱用防止の取り組み 生徒肯定率=80%以上 ・ブロッカーズに1年生からの参加者30人以上 カ 自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行っている」肯定意見70%以上(H28=69%) キ ボランティア参加生徒数の増加(H28=7事業のべ52人参加) (5)ア 教員研修の充実 ・自己診断(生徒)「担任以外に気軽に相談に乗ってくれる先生がいる」60%以上(H28=肯定57%) イ 自己診断(教員)「教育相談・支援委員会の効果的な運用」80%以上(H28=80%)</p>	<p>(1)ア1年・2年・3年=79.1・84.9・87.8%↑(○)※各HRの積極的取組や講演会内容がプラス評価 ・プランは検討中(△) (2)2758冊(△) 地域から借受1098冊(○) (3)ア52%↑(○)※諸行事活躍 ・挨拶67%・72%↑(○) ※来校者から好意的意見多い イ・加入率45.8%(45%)(△) ・7クラブ22回(△) ・72.7%が中学訪問(○)生徒の元気な姿を見てもらった (4)ア3027件(12.7%増加)(H28=2687件)(×) イ 生指部員と有志で1年間実施(○)※遅刻指導の改善必要 ウ警察・自動車学校と連携して実施実施(○)※実演講習での安全指導の効果大きい エいずれも6分以内(○) ・教員の話によく集中(○) ※日常的な授業規律と強く関係 オ・ブロッカーズで小2校訪問(○) 肯定率85%(○)※同上は解散、「薬乱」を学年全体の体験的学習に代替は効果あり。 カ67%↓(○)※微減 ※部活動の地域清掃活動あり キ8事業85名(○)※依頼数増加 ※今後の生徒指導では生徒の自主性を引出す工夫が必要である (5)ア愛着障がいを主題。SCの事例を基にした研修で共感多い(○) ・56%(○)昨年並み。 イ74%↓(○)※困難なケースは対応済みで、十分機能。教職員全体に共有できない内容もある。更に生徒・教員への周知と細やかな対応は必要</p>
------------------------------------	--	--	--	---

府立泉大津高等学校

<p style="text-align: center;">4 総合的な 学校力の 向上</p>	<p>(1) 初任者、ミドルリーダーの育成</p> <p>(2) 校内研修の充実と人権意識向上</p> <p>(3) ICT活用力向上と教科指導の充実</p> <p>(4) 学校の組織的運営と校務の効率化及び情報共有</p> <p>(5) 地域への発信及び広報活動の充実</p> <p>ア 本校の魅力を伝える積極的な情報発信</p> <p>イ 生徒参加の広報活動の実施</p>	<p>(1) 経験の少ない教員やミドルリーダーの育成</p> <p>(2) 人権や教育相談をはじめ、校内研修や校外研修を通して、諸課題に対する理解を深め、人権意識を高める</p> <p>(3) ICT活用と実験・実習、体験的な教科指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進校の研修機会を設け、校内での取組みを進める ・ ICT活用した授業交流を進める <p>(4) 学校の組織的運営および情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種会議資料の事前配布による会議の効率化 ・ 学校掲示板の活用による教職員の情報共有 <p>(5) 情報発信と広報活動の充実</p> <p>ア ・ 学校HPによる日常的な教育活動の積極的発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生がさらに見やすいHPの作成 ・ 広報委員会による全校あげでの広報活動を充実させる ・ 保護者向けEメッセージ登録者の増加やPTAの呼びかけの工夫で、学校行事等への保護者参加を促進する <p>イ ・ 泉大津市近隣中高連絡協議会による中高連携を深め、相互の学びと高校の教育活動の理解と魅力を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校訪問による直接の広報活動の実施 	<p>(1) ・ 自己診断（教員）「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」（H28 肯定= 69%）の上昇</p> <p>(2) 人権研修（教職員）年1回以上</p> <p>(3) 自己診断（生徒）「ICT活用と実験・実習、体験的な教科指導の充実」（H28=52%を60%以上）</p> <p>(4) ・ 自己診断（教員）「各種会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」（H28=71%）の上昇</p> <p>(5) ア ・ 校長ブログ新設。部活動HPの年2回以上の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「中学生の皆さんへ」の継続更新 ・ Eメッセージ登録者 60%以上（H28=60%） <p>イ ・ 中高授業交流で参加教員の満足度 100%（H28=100%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学の出前授業で中学生満足度 90%以上（H28=100%） ・ 近隣中学校を中心に 27 校以上（H28=27 校） 	<p>(1) ・ 91%↑（◎）※大幅上昇。年間通して育成チームが活動</p> <p>(2) 82%（○）※発達障がいを主題、教職員のニーズと合致</p> <p>(3) 55%↑（○）※微増。設備を整え、腰を据えた取組み必要</p> <p>(4) 64%↓（△）※各会議の情報共有の方法に改善が必要</p> <p>(5) ア 165 回 ・ 部活更新（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 更新 4 回（○）※学校HP閲覧生徒 14%（12%）保護 27%（20%） ・ 登録者 68.5%↑（673 件）（○） <p>イ 100%（○）※小・支援とも交流拡大。学びが広がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 85%↓（○）※生徒の関心が高く、今後も継続したい。 ・ 30 校↑（○）※対象中学校が増加。訪問時期（9 月）変更が課題
---	--	--	---	---